

# 地域別構想

# 地域別構想について

## 目的

全体構想では各部門別の方針を総合的に示しましたが、地域別構想では全体構想との整合を図りながら、市街地を地域区分し、各地域の将来像や課題を抽出し、住民に身近な地域のまちづくりを推進するための基本方針を示します。

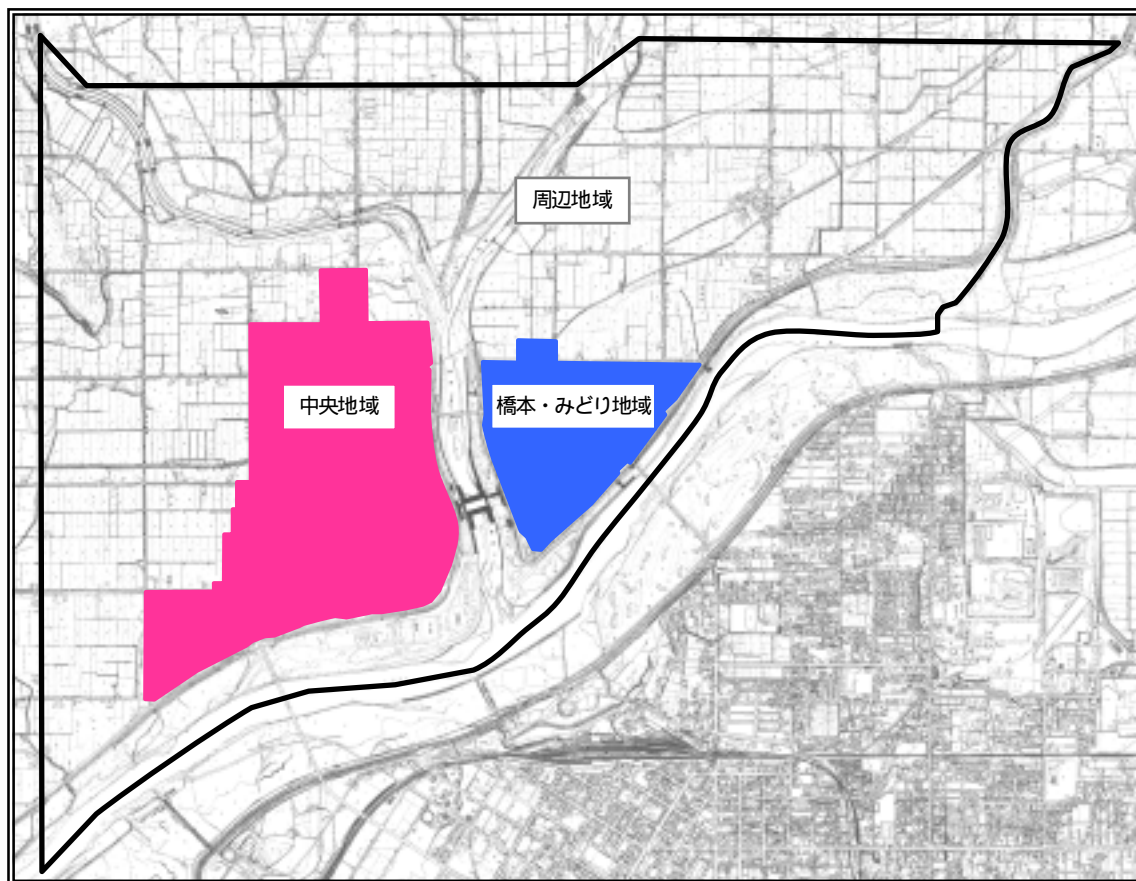
## 地域区分

本町は、自然骨格となっている石狩川と徳富川の合流点に開けた市街地であることから、徳富川に分断された南北2つの市街地地域とその周辺地域の3地域に区分しました。

各地域の行政区は次のとおりです。

- 中央地域(用途地域) : 北中央区、南中央区、菊水区、青葉区、文京区の一部
- 橋本・みどり地域(用途地域) : 橋本区、みどり区、宮前区の一部
- 周辺地域(白地地域) : 弥生区の一部、文京区の一部、上総進区の一部、総進区の一部、宮前区の一部、里見区の一部

地域区分図



## 地域別構想

### 中央地域

#### (1) 地域の現状特性

中央地域は徳富川と石狩川に挟まれた南に位置し、全体の80%が土地区画整理事業、開発行為等による整備済みの地域となっています。平成12年度末現在、本町全人口の約37%の人が住んでおり年々増加傾向にあります。地域には、役場・郵便局・ゆめりあなどを中心とした【生活文化交流ゾーン】、介護療養型医療施設・ケアハウスなどの【医療・福祉ゾーン】、小学校・図書館・青少年交流センターなどの【文教ゾーン】、開拓記念館・中央公園などの【歴史・スポーツ交流ゾーン】、土地区画整理事業等により整備された低層住宅地の【住環境充実ゾーン】、滝新橋に直結し菊水工業団地として整備された【工業集積ゾーン】があります。

また、都市計画道路の整備済み道路密度は4.35km/km<sup>2</sup>と標準的な道路密度(3.5km/km<sup>2</sup>)を上回っており、本町の中心市街地は生活基盤施設がほぼ充足した状況となっています。

#### まちづくりワークショップでの現況確認

- ・敷地内にみどりが多い
- ・町の持つ機能がある程度集中している
- ・徳富川河川敷が散歩コースにはとてもいい

- ・高校前庭や駅裏の緑など市街地の樹木
- ・中央公園の雰囲気
- ・歴史的建造物

- ・道路景観
- ・各施設への案内標識不足
- ・商店街ににぎわいがいい

- ・道路の緑
- ・歩道の歩きやすさ
- ・商店街の駐車場



良い所

残す所

悪い所

欠けている

## ( 2 ) 課題

- 1 ) 中央地域の商店街は、空洞化が進んでおり、商店街の充実が求められています。
- 2 ) 本町では現在住民の4人に1人が65歳以上であり年々増加傾向にあります。また、中央地域は各種施設が整備されていますが、歩道に段差等があるため、高齢化社会に対応した安全快適な歩行者空間の整備が求められています。
- 3 ) 各施設に対する案内標識が不足しており、どこに何があるのかわからないという意見が出ています。
- 4 ) 地域内の良好な緑の保全対策が求められています。
- 5 ) 街路樹の維持保全を含めて、快適な道路景観の形成が求められています。

### まちづくりワークショップでの課題

- 1 自然・花・みどりあふれるまちづくり
- 2 人がふれあいにぎわいのあるまちづくり
- 3 健康で安心して暮らせるまちづくり
- 4 安全で快適なまちづくり
- 5 機能的なまちづくり



### アンケートからの課題

住民アンケートにより本町の現状についての満足度を調査した結果、「交通の便」と「保健医療施設」の項目に対する満足度が比較的低い傾向を示しています。

### (3) まちづくりワークショップにおける意向

まちづくりワークショップにおいて、中央地域の土地利用と交通施設の将来イメージについて次のような提案がされました。

#### 1) 行政ゾーン

役場、ゆめりあ周辺地域を行政ゾーンとして位置づけ、行政サービスの集約化を進め住民の利便性向上を目指して環境整備と施設充実を図ることを目標とする。



#### 2) 歴史ゾーン

開拓記念館周辺地域を歴史ゾーンとして位置づけ、施設等の充実と利便性の向上を図ることを目標とする。

#### 3) 遊水・親水ゾーン

石狩徳富河川緑地を遊水・親水ゾーンとして位置づけ、スポーツ・レクリエーション広場を交流の場として有効活用を促進する。

#### 4) 教育・文化ゾーン

小学校、図書館、青少年交流センター周辺地域を教育・文化ゾーンとして位置づけ、この地域に文教施設の整備(新十津川農業高等学校の移転、専門学校等の誘致)を検討し、教育・文化ゾーンの充実を図ることを目標とする。

#### 5) 工業ゾーン

滝新橋の開通により広域交通の利便性が向上している菊水工業団地に、企業の誘致を推進するとともに、用途地域に隣接する既存の工業地の位置づけを明確にし、経済動向及び需要に合わせて地域の拡大を検討することが望ましい。

## 6) 商業ゾーン

役場付近を中心として国道沿いに商店街を形成し、本町の商業の活性化を促進する。また、商業ゾーンとしてだけでなく就業の場としての機能充実を目標とする。



## 7) ゲートゾーン

滝川・砂川方面から本町市街地への入り口としての景観統一の整備を推進することが望ましい。

## 8) 医療核

介護療養型医療施設を医療の核として位置づけ、利用が多い高齢者などのために周辺地域での医療・福祉施設の充実と利便性の向上を図ることが望まれる。

## 9) コンパクト

各施設や商店や共同住宅などを集約し、高齢者などが利用しやすい建物について検討する。また、接続する歩行者専用道路（バリアフリー化）を整備するなど歩きやすい環境づくりを推進することが望まれる。特に中央団地の建替え時には、コンパクト化のモデル施設の整備について検討することが望ましい。

## 10) 若年層

これからの高齢化社会のためには、若者と共に暮らせるまちが必要であり、助け合いが必要となっていくことから、現在分譲している土地区画整理事業区域に若年層の定住化を促進し、世代間の交流による地域活性化を図ることが望まれる。

#### 11) 市街地骨格道路

国道275号を地域の骨格道路として位置づけ、街路樹、街路灯など景観整備、安全性確保等を推進することが望まれる。

#### 12) 滝川市との交流道路

国道451号を滝川市とつながる環状道路として位置づけ、滝川市との交流を活性化することが望ましい。

#### 13) 各施設・各ゾーンとの連携道路（主に車）

各施設、各ゾーンとの連携道路として位置づけ、歩車道分離等を行うことで、スムーズな自動車交通を確保した道路としての機能を持たせることが望ましい。

#### 14) 各施設・各ゾーンとの連携道路（主に歩行者）

各施設、各ゾーンとの連携道路として位置づけ、歩道のバリアフリー化を推進し、住民の生活幹線道路としての機能を持たせることが望まれる。

#### 15) 歩行者メイン道路（バリアフリー&除排雪）

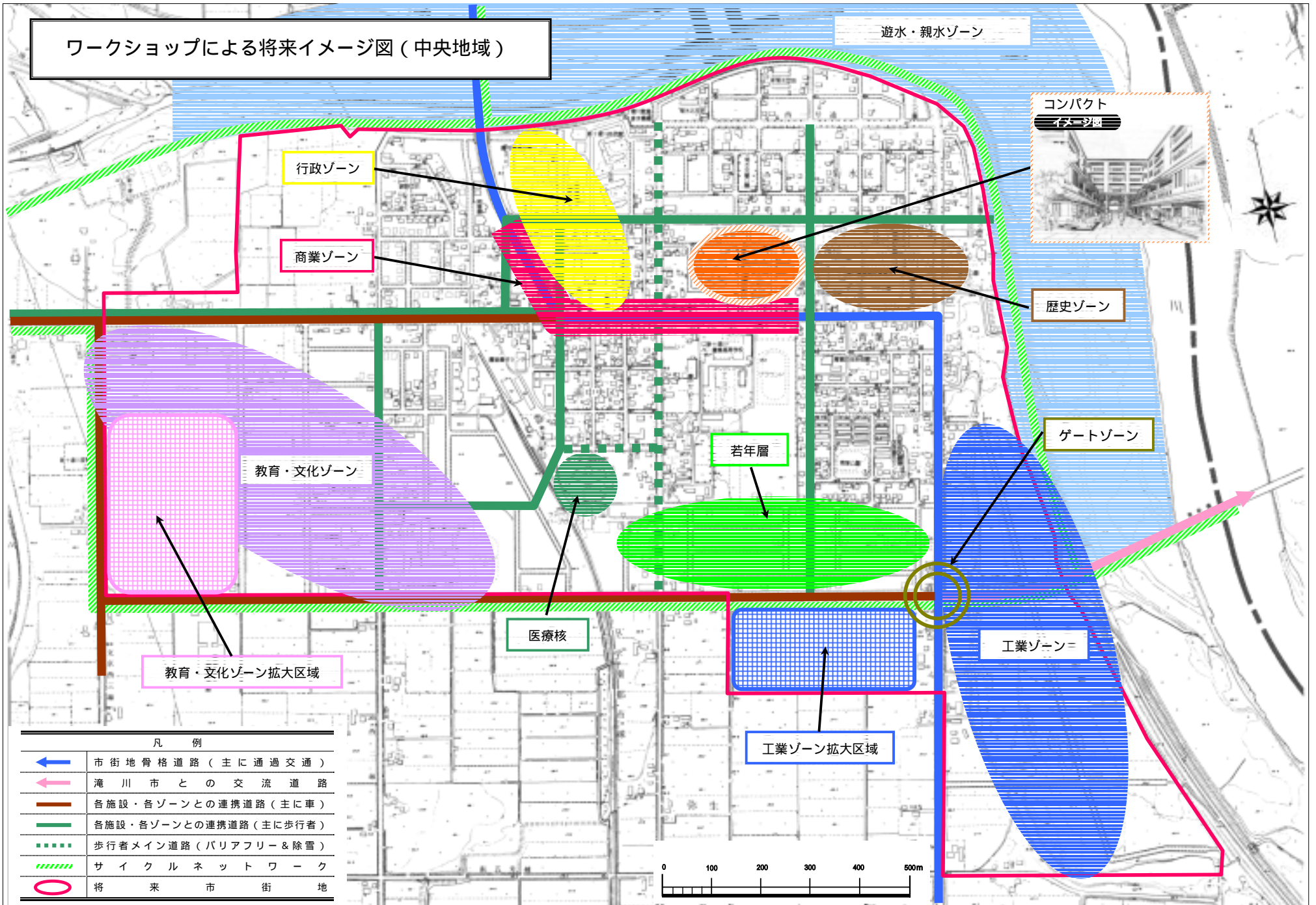
歩行者メイン道路として位置づけ、介護療養型医療施設、役場周辺など、高齢者の利用頻度の高い施設間をバリアフリー化と除排雪の行き届いた道路とすることが望まれる。

#### 16) サイクルネットワーク

町民が自然と親しみ、高齢化社会における健康増進の場として、安全・快適な空間を提供するとともに国道の歩道等に接続し、石狩徳富河川緑地とふるさと公園との連携を高めることが望ましい。



# ワークショップによる将来イメージ図（中央地域）



凡 例	
	市街地骨格道路（主に通過交通）
	滝川市との交流道路
	各施設・各ゾーンとの連携道路（主に車）
	各施設・各ゾーンとの連携道路（主に歩行者）
	歩行者メイン道路（バリアフリー&除雪）
	サイクルネットワーク
	将来市街地



## (4) 地域の将来的方向性

以上の地域の課題やまちづくりワークショップにおける提案から、地域の目標を次のように設定し、地域の将来的方向性を示します。

---

### 世代を超えてふれあう緑豊かなコンパクトタウン

---

#### 1) みどり(花と緑の景観)

今までの緑の保全や街路樹の維持管理等は行政が主体となって行われてきましたが、これからの緑あふれる市街地景観を守っていくためには住民との協働による活動展開が重要となってきます。

公園づくりや街路樹の育成等へ住民が参加できる体制づくりを進め、うるおいのある街並み景観の創出を目指します。

平成12年に決定された町民の花を使った市街地内未利用地の有効活用、民有地の緑化、緑の保全についてのルールづくりについて検討していきます。

#### 2) にぎわい(商工業と雇用促進)

商業の活性化については、既存店が商品流通や消費者動向などの集約を図り、ニーズに対応できる体制を整備することが重要となってきます。現在の商店街をより活気のある場所とするため、商工会や事業主と連携して各種ソフト事業や景観統一事業等を推進するとともに、国道沿線の空地の利用促進を図ります。

また、大型店等の出店は、立地条件や採算性が重視されることから、本町への進出は考えにくいのが現状ですが、進出することになれば、立地については住民と共に十分検討していきます。

工業については、環境負荷の少ない産業等の企業誘致や地場産品を活用した産業の創出を推進し、雇用促進を図ります。

### 3) わかりやすい(機能的な街と案内標識)

市街地の分散や拡大は、公共施設の維持管理費の増大や高齢者の移動困難にもつながることから、市街地がよりコンパクトで機能的になるように市街地内未利用地の有効利用を進めていきます。また、土地利用については、地域ごとに特色をもたせて機能を明確化することにより、わかりやすい市街地構成を目指します。

主要施設には、町外から来られた人にわかりやすい案内標識の整備を推進します。

### 4) ふれあい(観光と施設)

サイクルネットワークやフラワーロードの整備を形成することによりふるさと公園と石狩徳富河川緑地や開拓記念館、物産館との連携を高めます。また、体験型農業を实践するクラインガルデン<sup>1</sup>の開設を行い、町のイメージアップを図り交流人口の増加を目指します。また、JR新十津川駅については、現在の利用状況等からリニューアル等は難しい状況ですが、現在そのまま保全することによりシンボリックな存在として活用を図ります。

その他の公共施設の整備については、アンケートでは「新たな施設は必要と思わない」、「利用者の少ない経費のかかる施設は、複合的に他の利用を検討すべき」と回答した方の割合が多くなっていることから既存施設の複合的有効活用を進め、施設の新設については、今後の施設需要等を十分検討して対応していきます。

### 5) あんしん(健康と福祉)

施設や歩道等のバリアフリー化については、新設や改修時期に合わせて進めていきますが、特に公共公益施設間の歩道については優先的な維持管理を目指します。

高齢者・障害者にやさしいまちづくりのため、将来的には入所施設や通所施設が必要となってくると考えられますが、新しい施設の整備は難しい状況にあることから、今後の需要動向を見ながら既存施設を有効活用するための方法を含めて検討していきます。

市街地と石狩徳富河川緑地をサイクルネットワークで接続し、スポーツ広場等の有効活用やサイクリングを通しての健康づくりを促進します。

1 クラインガルデン

ドイツ語で小さい庭。都市住民のための休憩施設付き貸し農園。

## 6) あんぜん(交通と雪対策)

本町は道内でも積雪量の多い豪雪地帯であり、冬道の安全確保は大きなテーマとなっています。市街地の雪対策として有効な流雪溝の設置については、技術的な問題や多額の維持管理費が必要となることから難しい状況となっています。そのため冬道の安全確保についてはバス路線・通学路・主要幹線道路の除排雪を主体とし、公共公益施設間の歩道や交差点を重点的に除排雪することで対応を図っていきます。

道路の維持管理については、住民と行政の役割分担やこれからの維持管理のあり方について住民と共に検討して行きます。

また、バスなどの公共交通機関は、今後の高齢化社会において地域住民の交通手段として重要性が高くなることが想定されることから、路線の確保や充実に努めます。

## (5) 整備方針

### 1) 土地利用方針

#### a) 住居系

土地区画整理事業、開発行為等による整備済区域内の低・未利用地については、土地利用の促進を図り、未整備地域については基本的に周辺の自然環境に配慮した低層系の田園住宅地域としますが、将来土地需要の動向に合わせて用途地域の縮小についても検討していきます。また、土地区画整理事業区域には、今後の高齢化社会を支える若年層の定住促進を図り、世代間の交流による地域活動活性化を目指します。

#### b) 商業系

商業系の土地利用については、国道沿いの未利用地を活用して、地域の消費者ニーズに対応できるような商店街の整備を推進することにより、高齢化社会にも対応した魅力あるものを目指します。

#### c) 工業系

菊水工業団地は、滝新橋開通により広域交通の利便性が向上しているため、企業の誘致を推進します。また、JR新十津川駅周辺の農業倉庫群は、輸送形態が変化していることから、今後土地利用の転換を検討していきます。

## 2) 地域環境整備方針

### a) 道路

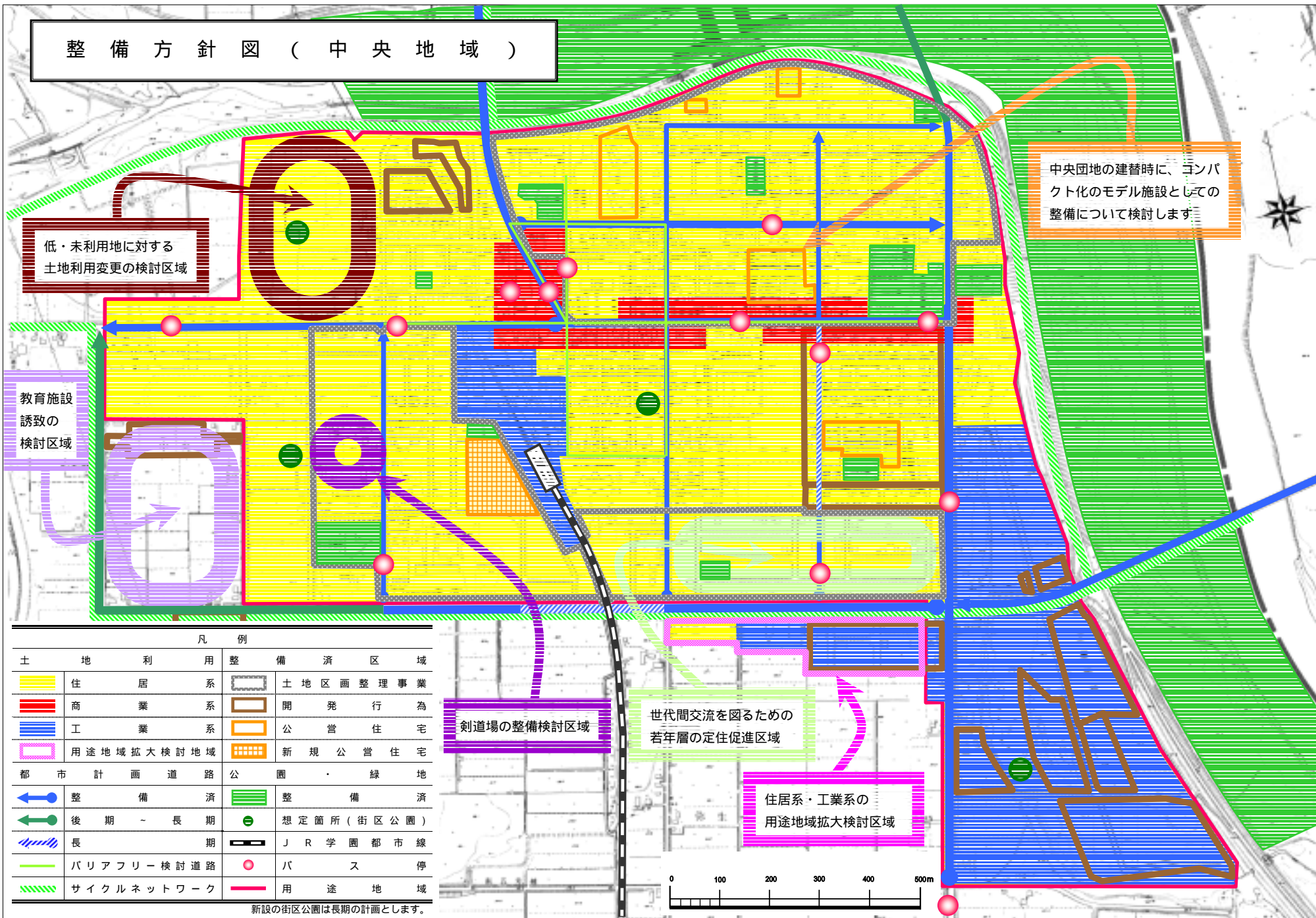
現在整備済みの道路の維持管理に努めつつ、冬期間の除排雪体制の強化を図ります。また、役場や介護療養型医療施設など高齢者が多く利用する歩道のバリアフリー化を検討し、安全確保に努めます。

都市計画道路については、全体計画の見直しも含めて検討し、南4号通の整備は、市街化の進ちょく状況や整備効果を考慮して進めます。

### b) 公園

今後誘致距離を勘案しながら、計画的宅地整備の進ちょく状況に合わせて公園の整備を推進します。また、既存の公園を維持していくとともに、利用者ニーズの変化に合わせてリニューアルの検討も進めていきます。

# 整備方針図（中央地域）



低・未利用地に対する  
土地利用変更の検討区域

教育施設  
誘致の  
検討区域

中央団地の建替時に、コンパクト化のモデル施設としての整備について検討します。

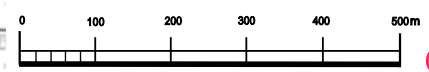
剣道場の整備検討区域

世代間交流を図るための  
若年層の定住促進区域

住居系・工業系の  
用途地域拡大検討区域

凡 例		整 備 方 針	
黄色	住居系	点線	土地区画整理事業
赤色	商業系	粗点線	開発行為
青色	工業系	細点線	公営住宅
点線	用途地域拡大検討地域	格子線	新規公営住宅
青線	都市計画道路	緑線	公園・緑地
双頭矢印	整備済	緑線	整備済
左向き矢印	後期～長期	緑線	想定箇所(街区公園)
斜線	長期	黒線	JR学園都市線
緑線	バリアフリー検討道路	赤点	バス停
緑線	サイクルネットワーク	赤線	用途地域

新設の街区公園は長期の計画とします。



## 橋本・みどり地域

### (1) 地域の現状特性

橋本・みどり地域は徳富川と石狩川に挟まれた北に位置し、この地域は古くからの市街地として栄えました。開発行為により整備された住宅団地の【住環境充実ゾーン】、酒造会社などの【軽工業ゾーン】がありますが、まだ低・未利用地が多く残されています。平成12年度末現在、本町全人口の約18%の人が住んでおり年々減少傾向にあります。公共・公益施設としては郵便局、保育所、自治会館、公園などが整備されています。

また、都市計画道路の整備済み道路密度は1.99km/km<sup>2</sup>と標準的な道路密度(3.5km/km<sup>2</sup>)を下回っています。

#### まちづくりワークショップでの現況確認

- ・敷地内にみどりが多い
- ・石狩川河川敷のパークゴルフ場

- ・市街地周辺の田園風景
- ・シンボルとなる歴史的建造物

- ・道路景観
- ・商店街ににぎわいが無い

- ・道路の緑
- ・歩道の歩きやすさ

良い所

残す所

悪い所

欠けている



## ( 2 ) 課題

- 1) 橋本・みどり地域の人口は年々減少傾向にあり、特にみどり団地は宅地開発後30年以上経過し居住者の高齢化が進んできていることから、今後地域住民の高齢化対応が必要です。
- 2) アンケートにおいて「本町の自慢できる場所や特産品」の中で多くの回答を得ている酒造会社は、歴史的に価値ある建物としてこれからも残していきたいという意見が出ており、酒造会社周辺の環境を整備・保全するなど、ゲートゾーンとしての景観形成が求められています。
- 3) 商店街の空洞化が著しくなっており、地域住民の日常生活の利便性が低下しています。
- 4) この地域にはまとまった低・未利用地が広くあり、その土地の有効活用が求められています。

### まちづくりワークショップでの課題

- 1 自然・花・みどりあふれるまちづくり
- 2 人がふれあい、にぎわいのあるまちづくり
- 3 健康で安心して暮らせるまちづくり
- 4 安全で快適なまちづくり

### アンケートからの課題

住民アンケートにより本町の現状についての満足度を調査した結果、「交通の便」と「保健医療施設」の項目に対する満足度が比較的低い傾向を示しています。

また、道路、公園の整備を必要とする声が高くなっています。

### (3) まちづくりワークショップにおける意向

まちづくりワークショップにおいて、橋本・みどり地域の土地利用と交通施設の将来イメージについて次のような提案がされました。

#### 1) 商業ゾーン

酒造会社付近を中心として国道沿いに地域住民の生活サービス施設の充実を図り、商業ゾーンとしての機能を促進することが望まれる。

#### 2) 居住ゾーン

緑豊かで良好な環境を保全し、住宅地として現状維持を図るとともに、地域助け合い活動の活性化を図ることが望ましい。

#### 3) 遊水・親水ゾーン

今後も石狩徳富河川緑地を遊水・親水ゾーンとしてパークゴルフ場やデイキャンプ場を交流の場として有効に活用する。

#### 4) ゲートゾーン・酒造会社

歴史的価値のある建築物である酒造会社を今後とも保全し、周辺整備を含めて本町の入り口としての景観整備を推進することが望まれる。



#### 5) 大型商業施設の誘致

国道沿いの低・未利用地は、地域の活性化や就業の場を創出するため、大型商業施設の誘致も含めて活用方法を検討することが望ましい。また、他の低・未利用地については有効な活用方法を検討することが望まれる。



#### 6) 市街地骨格道路

国道275号を地域の骨格道路として位置づけ、街路樹、街路灯など景観整備、安全性確保等を推進することが望まれる。

#### 7) 滝川市との交流道路

国道451号は滝川市とつながる環状道路として位置づけ、滝川市との交流を深めることが望ましい。

#### 8) 各施設・各ゾーンとの連携道路(主に歩行者)

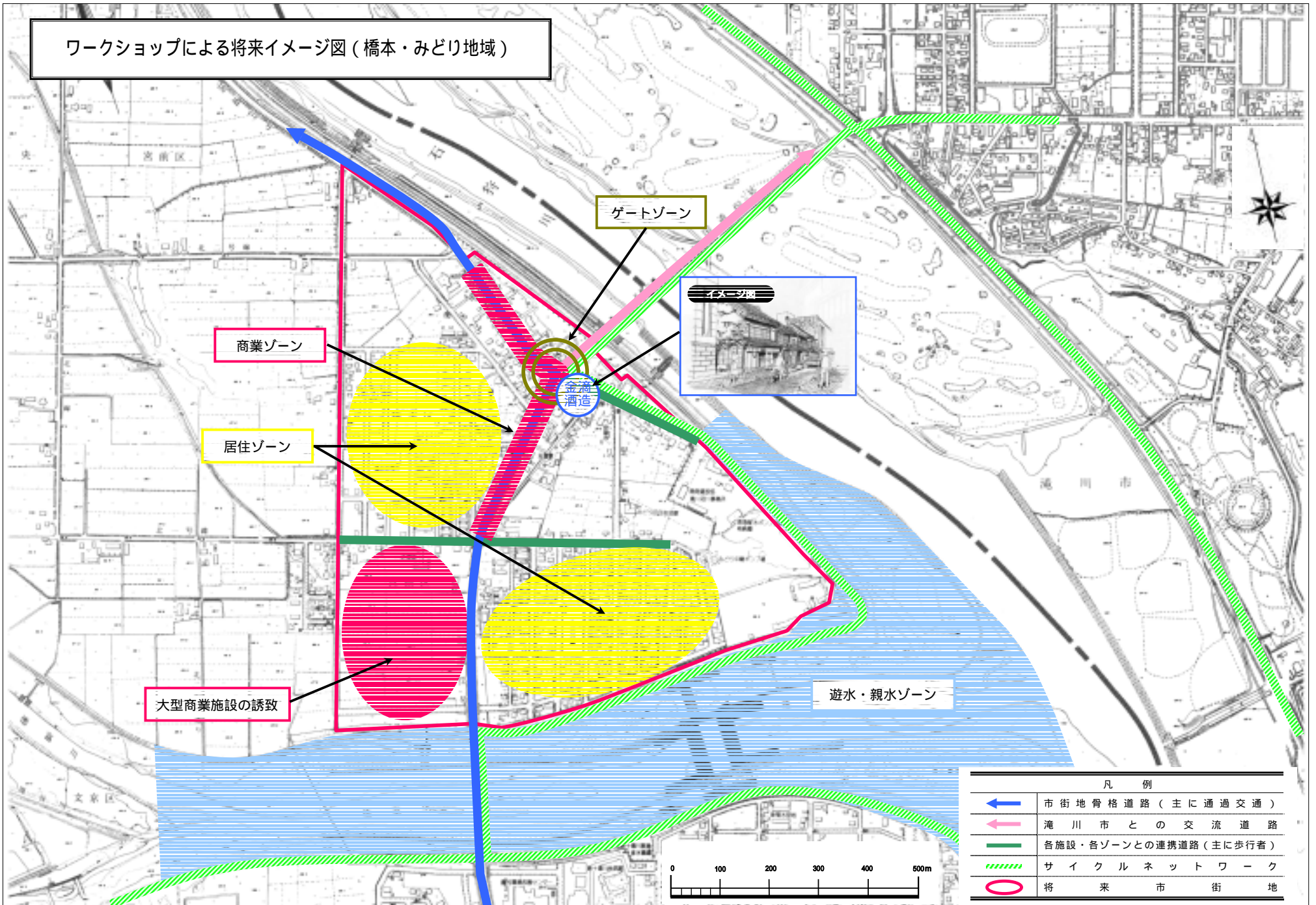
各施設、各ゾーンとの連携道路として位置づけ、歩道のバリアフリー化を推進することで住民の生活幹線道路としての機能をもたせることが望ましい。

#### 9) サイクルネットワーク

町民が自然と親しみ、高齢化社会における健康増進の場として、安全・快適な空間を提供するとともに国道の歩道等に接続し、石狩徳富河川緑地とふるさと公園との連携を高めることが望ましい。



ワークショップによる将来イメージ図（橋本・みどり地域）



凡 例	
	市街地骨格道路（主に通過交通）
	滝川市との交流道路
	各施設・各ゾーンとの連携道路（主に歩行者）
	サイクルネットワーク
	将来市街地

## ( 4 ) 地域の将来的方向性

以上の地域の課題やまちづくりワークショップにおける提案から、地域の目標を次のように設定し、地域の将来的方向性を示します。

---

### みどりあふれる安全・安心で住み続けることができるまち

---

#### 1) あんぜん（交通と雪対策）

冬道の安全確保については、バス路線、通学路の除排雪を主体とし、歩道や交差点を重点的に除排雪することで対応を図っていきます。

この地域は国道275号により東西に区分されており、両地域をつなぐ幹線道路が未整備となっていることから、石狩徳富河川緑地と新設の公園、橋本団地をつなぐ景観・安全性に配慮した歩いて楽しい道路の整備を目指します。

また、滝川市や砂川市など近隣市町への生活交通手段であるバスは、利用者の減少から現在の運行体制を維持することも難しい状況となっていますが、将来の高齢化の進展に伴い、地域間移動の主要な公共交通機関として益々重要性が高くなることが想定されることから、路線の確保や利便性の向上に努めます。

#### 2) にぎわい（商工業と雇用促進）

商業の活性化については、既存店が商品の流通や消費者動向などの集約を図り、ニーズに対応できる体制を整備することが重要となってきます。現在の商店街をより活気のある場所とするため、商工会や事業主と連携して各種ソフト事業や景観統一事業等を推進するとともに、国道沿線の空地の利用促進を図ります。

また、大型店等の出店は、立地条件や採算性が重視されることから、本町への進出は考えにくいのが現状ですが、進出することになれば、立地については住民と共に十分検討していきます。

工業については、エコ産業やIT産業等の企業誘致や地場産品を活用した産業の創出を推進し、雇用促進を図ります。

### 3) まちのかお(まちの玄関口)

滝川市街地からのゲートゾーンとなる酒造会社周辺の区域については、歴史的建築物の保存を含めた景観形成のあり方や活用方法について、町民や所有者の意見を十分聞きながら検討を進めます。また、街路灯や歩道等の統一による市街地の景観形成については、既存のものを統一することは困難ですが、今後新設や改修されるものに関しては、統一性が図られるよう基準等について検討します。

### 4) みどり(花と緑の景観)

一人当たりの公園の整備率が中央地域と比較して少ないことから、住民との協働により地域の中心となる公園の整備について検討を進めます。また、周辺の住宅地についても、敷地内の緑化率<sup>1</sup>を高めるなどのルールづくりを住民と共に検討し、緑とうるおいのある住環境の実現を目指します。

#### 1 緑化率

各施設の敷地の中で緑化された部分が占める割合。

## (5) 整備方針

### 1) 土地利用方針

#### a) 住居系

既存の住宅地は、良好な住宅地として現状維持を継続するとともに、広く残っている低・未利用地については、大型商業施設の誘致も含めた有効な活用方法について検討していきます。また、現在用途地域外である白樺団地については、用途地域への編入を含めて検討していきます。

#### b) 商業系

商業集積を図ることが難しいことから、地域に密着した快適で便利な商業環境の整備を推進します。

#### c) 工業系

住居系の土地利用となっていることから、周辺の住環境に配慮したIT産業等の軽工業施設の誘致を推進します。

## 2) 地域環境整備方針

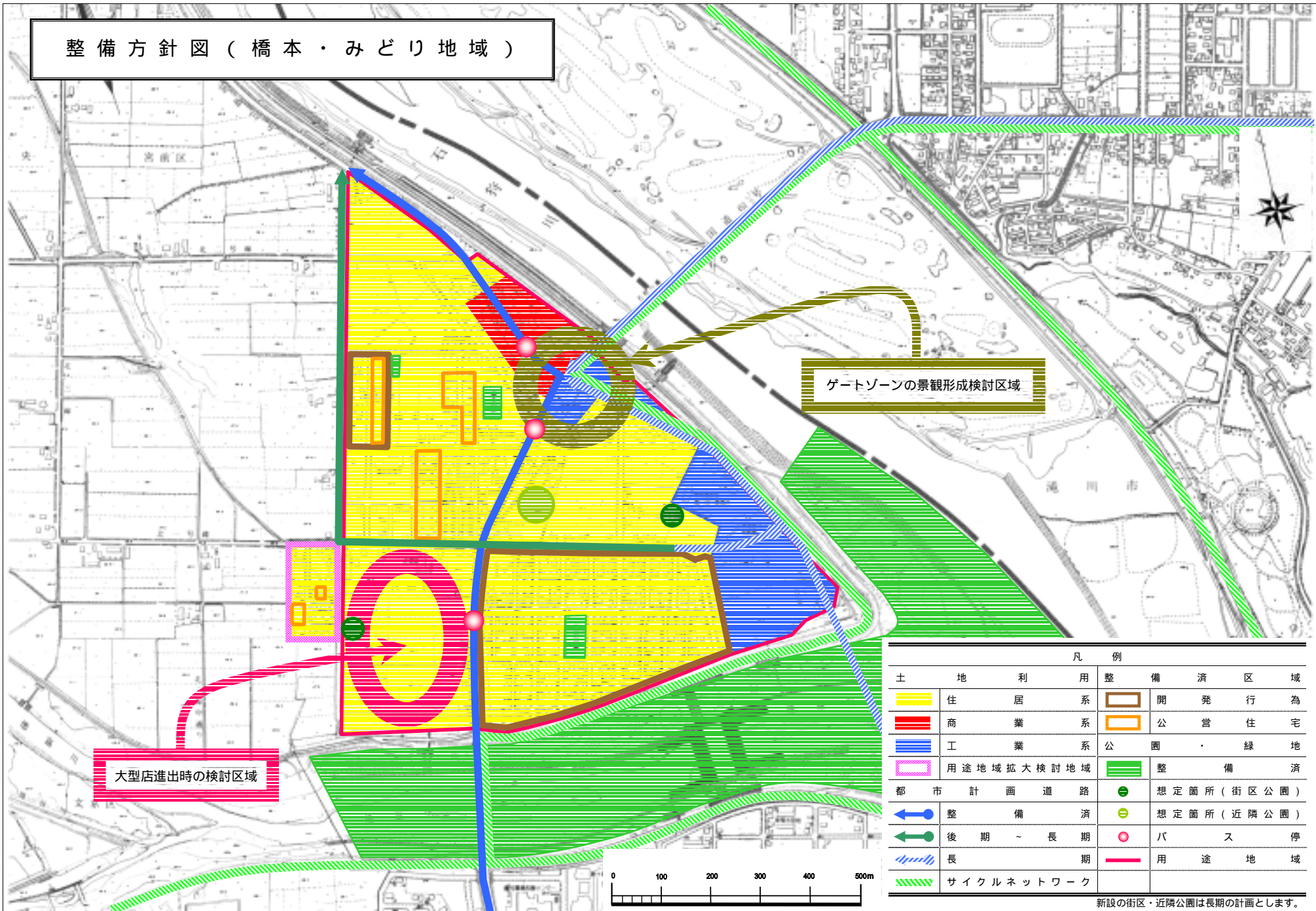
### a) 道路

現在整備済みの道路の維持管理に努めつつ、冬期間の除排雪体制の強化を図ります。また、都市計画道路については、地域内の生活幹線道路である北2線を地域の動向に合わせて整備し、その他の路線については、全体計画の見直しも含めて検討します。

### b) 公園

既存の公園については、利用状況の変化に合わせたリニューアルを検討していくとともに、宅地開発整備の中でこの地域の中心となる公園を整備していきます。

整備方針図（橋本・みどり地域）



ゲートゾーンの景観形成検討区域

大型店進出時の検討区域

凡 例		凡 例	
土 地 利 用	整 備 済 区 域	整 備 済 区 域	開 発 行 為
住 居 系	開 発 行 為	開 発 行 為	公 営 住 宅
商 業 系	公 園 ・ 緑 地	公 園 ・ 緑 地	整 備 済
工 業 系	整 備 済	整 備 済	都 市 計 画 道 路
用途地域拡大検討地域	想 定 箇 所 ( 街 区 公 園 )	想 定 箇 所 ( 街 区 公 園 )	想 定 箇 所 ( 近 隣 公 園 )
都 市 計 画 道 路	想 定 箇 所 ( 近 隣 公 園 )	想 定 箇 所 ( 近 隣 公 園 )	パ ス 停
整 備 済	パ ス 停	パ ス 停	用 途 地 域
後 期 ~ 長 期	用 途 地 域	用 途 地 域	サ イ ク ル ネ ッ ト ワ ーク
長 期	サ イ ク ル ネ ッ ト ワ ーク	サ イ ク ル ネ ッ ト ワ ーク	
サ イ ク ル ネ ッ ト ワ ーク			

新設の街区・近隣公園は長期の計画とします。

### ( 1 ) 地域の現状特性

周辺地域は都市計画区域内で中央地域、橋本・みどり地域以外の地域です。この地域は主に農地となっていますが、宮前区の一部は宅地化されています。平成12年度末現在、本町全人口の約8%の人が住んでおり年々減少傾向にあります。

### ( 2 ) 課題

周辺地域では多様な農作物を生産していますが、現在の農業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷など極めて厳しい状況にあります。農業は本町の基盤産業であるため、この地域の保全が必要です。

#### アンケートからの課題

今後の土地利用は「耕作放棄地の有効活用を図る」、「農地の利用を守る」と回答した方が多く、それに対し、「住宅地の開発を進める」と回答した方は少数となっています。



### ( 3 ) 地域の将来的方向性

以上の地域の課題から、地域の目標を次のように設定し、地域の将来的方向性を示します。

---

田 園 風 景 が 広 が る ま ち

---

#### 1) うるおい(田園風景)

市街地周辺に広がる田園風景は、背景に連なるピンネシリ、暑寒別岳と共に生活にゆとりやうるおいをもたらす貴重な資源となっていることから、農地の景観保全を図っていきます。また、本町の主要産業である農業の安定的な経営を確立するため、クリーン農業や農産物のブランド化、農地の集積や集落営農組織の確立を進めます。